



がどうだより

吟道賀堂流総本部 会報
第11号 令和8年5月1日
発行 吟道賀堂流総本部
会長 磯部賀堂

賀堂流第63回流碑祭

3月20日の春分の日、当番会の近畿本部白陽吟詠会と流碑管理委員会により準備がなされ、姫路護国神社境内の賀堂流碑前にご遺族6名と会員90名の96名が参列、11時に式典開始。石井賀崇石副会長先導での会詩合吟の後、神官が参進、神事が始まり野町賀少理事長の先導で遺族代表として近畿本部北辰吟詠会の小西様が功労物故者6名の銘板を流碑背面の安置堂に奉安。昨年度吟士権者高井賀紫康さん献吟等の後、本庄賀秀峰副会長の閉会の辞で終了。尚、各本部からの献吟等を省略し、時間短縮を図った。

奉安物故者名 高田堂浩幸(近畿太子)、高井賀洵進(近畿北播)、小西賀晴影(近畿北辰)、
魚住賀久征(近畿白陽)、恒藤賀双遊(近畿しらさぎ)、近藤賀紫静(近畿白陽)



(流碑管理委員会)

役員総会/参議会

3月20日(祝)、流碑祭の後、昨年より20分早い12時40分から役員60名中、出席48名(含むZoom2名)で開会。始めに、3月10日に逝去された藤河賀久清元老の御霊に黙祷を行い、議長を選出して進行。議題の前に、高齢による体調不良等で役員の方の辞退者があり、宗家より辞退者に代わる新しい役員



本田賀清笙

の発表があった。副理事長には、中国本部 本田賀清笙が就任した。

議題に入り、令和7年度の事業報告は要点のみ、令和8年度事業計画及び予算案が承認された。令和8年度の登録会員数は、599名で昨年より41名減。本年開催の第



34回吟士権者決定大会の予定していた会場が、工事のため使用できなくなり、姫路市立図書館飾磨分館に変更。また、審査員の審査担当以外への出吟、第5部への重複出吟の可、合吟は4名編成とするなどの改定があった。

参議会は、賀堂基金の令和7年度の収支報告、定本・教本の在庫報告、定本絶句編と教本(一)をそれぞれ200冊発行が決まった。令和9年以降の吟士権者決定大会の審査基準を、吟則の「気品と気迫、至情に満ちた吟を尊ぶべし」を重視する審査基準に見直すべく宗家より提案があり、今後、具体的な指針を決めて、令和9年度の審査員研修会反映することとなった。

(事務局/参議会)

吟道賀堂流の歴史(11)

愛国詩吟総連盟(15府県の16連盟加入。以下愛連と略す)は来年に結成90周年を迎えます。賀堂流との関わりは、昭和13年に吉田益三大阪経済新聞社長の呼び掛けで第1回関西吟士権者決定大会が開催され、初代宗家が審査員及び三吟豪(磯部賀堂、松本國風、真子西洲)として特別出吟、評議員を務めたことに始まります。昭和19年第7回大会の第二部(指導者の部)で神戸の服部賀公(牧賀公)が吟士権を取ったが、その後は終戦で中断。

昭和27年末に愛連復活し、昭和28年に第8回大会が開催された。賀堂流からは昭和21年再開した神戸吟詠会の山村賀鳳会長が常任理事に就任、その後昭和34年には中国本部・姫路朗吟会・西播詩吟会、昭和40年には福知山吟詠会も参加。昭和50年には桧垣賀陽師が副理事長に、昭和58年には牧賀公が副理事長に就任した。

平成23年第66回大会の第一部、平成27年第70回大会の第二部で平山賀宝弓(近畿赤穂)が見事、吟士権者となった。愛連主催のジュニア燦々優勝者決定大会では平成30年第10回大会で木山咲良(近畿赤穂)が優勝。

また平成30年の愛連結成80周年記念誌発行では編集委員として近畿本部石井賀崇石会長が活躍した。

(磯部賀堂)



吟と健康(11) *** 再度オーラルフレイルを意識しよう ***

声帯の老化は全身に影響!! 私達が一番気になる声帯についてももう一度考えてみましょう。

老化の一つ、声帯に隙間ができると、ビンの蓋が開けにくい、体に力が入れづらい、つまずいた時とつさに踏みとどまれなくなったり、また食物や唾液など食道に入るべきものが気管に入りやすくなり誤嚥性肺炎のリスクも高くなります。日々の生活の中で、バランスの良い食事は意識しても普段の会話はどうでしょうか、声の老化を引き起こす一番の原因は、「話さなくなること」、「相手に聞き返されること」、「ボソボソとしゃべること」、「早口になっていること」「聞き手にばかりになっていること」など、一日ほとんど喋らなかつたなあ、なんて日はだめですよー!! どんどん話しましょう!



話す時は、滑舌良く、大きな声で話す。腹式を意識し、トーンを少し上げる気持ちで、はきはきと発声し、語尾までしっかり相手に届ける。日々の積み重ねで、ストップ・ザ・老化(声帯)

(村山賀聖香)

近畿本部

燦々シニアの部で吉田賀志さんが優勝！！

4月19日に開催された「第17回兵庫県燦々優勝者決定詩吟大会シニアの部」の決勝で赤穂吟詠会の吉田秋良さんが見事、優勝しました。おめでとうございます。

7月26日の愛連大会出場の上位入賞には上田和郎・高井康博・上月太さんの3名が入りました。

入賞は森田幸代・古下泰治・水井清則・藤原照代・近藤重義・福田陽子・藤井洋子・小野美津代・松本哲郎・佐々木由紀子さんの10名でした。

当日の審査及び役員で朝早くからご奉仕された方々お疲れさまでした。

(事務局)



合吟チーム発会式



4月16日姫路市すこやかセンターにて、宗家・会長はじめ幹部役員の出席のもと、合吟チーム67名(男性21名、女性46名)の発会式を開催した。昭和61年(1986年)姫路朗吟会の時に発足し、40年の歴史を持つ合吟チームは、今後11月まで、67名の仲間との親睦と吟力の向上に向けて活動を開始する。合吟チームは、湊川奉納吟、姫路城観月会、県ふれあい文化の祭典などへの出場を行っている。今年の県ふれあい文化の祭典は、姫路で開催が予定されており、男女アベック優勝を期している。(合吟部)

中国本部

中国本部親睦勉強会開催について

昨年12月11日、12日の2日間にわたり、中国本部親睦勉強会が竹原の大広苑にて開催された。

1日目は、中国本部大歳賀妝映会長の挨拶にはじまり、4班に分かれてディスカッションが行われた。

テーマは①会員の減少、②研修会、③組織の活動内容 などについて、熱心な意見交換をされた。

2日目は、竹原街並み保存地区、頼 惟清邸、照蓮寺など、頼山陽ゆかりの旧跡を散策。寒い日でしたので温かい飲み物で暖まり、名残惜しくも、帰路についた。

今回の親睦勉強会にあたり、皆さまのご協力で、無事に終えることができたことに感謝。

これからも賀堂流中国本部の発展のために尽力して参ります。(事務局 土屋賀美咲)



藤河賀久清元老(宗範)ご逝去

かねて、治療療養中であつた藤河賀久清先生(賀久清吟詠会)は、3月10日薬石効なく眠るがごとく天に召された。

第17代少壮吟士の称号を得られ、日本吟詠詩舞道界を始め賀堂流中国本部及び総本部においても、「藤河流」譜節の吟詠法を指導された功績と貢献度はあまりにも大きい3月12日 JAひろしま海田セレモ館にて、宗家のご臨席を仰ぎ多くの詩舞道関係者の参列を得て、しめやかに本葬儀が執り行われた。葬棺時に賀堂流参列者全員で、追悼の和歌「哀傷」を合吟して献花を添えた。心より安らかなるご冥福をお祈り申し上げます。



(事務局長 宅重賀清輝)

京都本部

R8年2月22日(日)、会員総会を終えて今年度がスタートした。会員の高齢化や体調不良に因る退会などで、指導者数の減少や会を担う中堅層の減少が著しく、新たな視点での運営組織の改編が急務となっている。暫定的には各事業の規模や回数を縮小しつつ、事業の精査と楽しい会運営を目指していくが、併せて準師範以上の資格者には「指導者育成」特別研修を行い、新会員の受け皿の確保と会員の拡大に向けて、幾つかの新教室開設の準備を進めている。

先日の「前期資格認定会」では9人の受審者があり、宗家から「大勢の若い会員が受審されエネルギーを感じる」と喜んで頂いたが、幼少年3名の成長も頼もしい。(長岡京吟詠会 広報部)

第16回愛連フェスティバルに出演して

僕が詩吟を始めたころから、アルカイクホールはおじいちゃん(高橋賀秀正)のお勧めで、いつか舞台上に律ってみたいと思っていました。変声期でうまく声が出ない日もあるけれど、耐震化工事で4年間は使えなくなると聞いて、思い切って出演することにしました。ホールいっぱい響き渡って、今までで一番気持ちよく吟じることができたので、とてもいい思い出になりました。生まれ変わったアルカイクホールでまた吟じられるように頑張ります！(高橋拓来)



YouTube



賀堂流ホームページ: <https://gadou.info>
- スマホで賀堂流ホームページへ

担当 吉永賀鈴、片岡賀弘蒼、村山賀聖蓉
連絡先 吉永賀鈴 TEL:079-298-5107
E-mail: garei_yoshi@yahoo.co.jp